

## 題目 協力集団模倣についての実験的検討

氏名 山下笑

指導教員 竹澤正哲

ヒトの協力行動は、血縁関係を越えて行われ、他の種では見られないほど大規模である。協力行動は、自分がコストを払って他者に利益を与える行為であり、直接自分の利益にはならないことが多い。社会的ジレンマ状況では、個人が自己利益のみを追求する場合、非協力を選択することが合理的である。このような状況において、なぜ協力行動が進化してきたのかという問題は、長年取り組まれてきた。しかし、血縁淘汰や互惠性といった従来の説明では不十分な点があった。近年は、文化的集団淘汰による説明が試みられている。文化的集団淘汰とは、集団淘汰により、集団間で文化形質が拡散されるという仮説である。文化的集団淘汰によって文化形質が伝達されるプロセスには、戦争、移住、模倣がある。これまでの研究では、戦争が文化的集団淘汰に必要不可欠なものと認識され、移住や模倣についての検討はあまりされてこなかった。そこで、本研究では、社会的ジレンマ状況で協力における外集団模倣が存在するのかを実験室実験で検証した。実験では、罰なしの公共財問題ゲームが繰り返された。実験条件として、次の二つの条件を設定した。一つは、他集団の利得と行動を表示する他集団情報表示条件であり、参照情報として、予め実験者が用意した協力的な成功集団を提示した。もう一つは、他集団の利得と行動を表示しない他集団情報非表示条件であり、参加者は自らの集団情報のみ参照した。実験の結果、非表示条件に比べて、表示条件で、情報を参照した後の集団への貢献量が大きかった。この結果は、非協力的な集団のメンバーが協力的な集団の行動を観察する機会を与えられると、外集団模倣が生じ協力行動が増加するという仮説を支持する結果であった。